

# こども教育会議 会議録（速記メモ）

<p>日時 令和2年2月14日（金） 13:30～14:35</p>	<p>場所 武雄市役所 4階会議室</p>	<p>出席 小松市長、浦郷教育長 教育委員（一ノ瀬、副島、大庭、馬場、岡本、松尾、田中、大渡、堀田） 岩瀬福祉部長、福祉課（黒尾課長、田寄室長、福田、多恵、古田課長代理） 健康課（大渡参事） 松尾こども教育部長、牟田こども教育部理事 教育総務課（諸岡課長） こども未来課（弦巻課長） 学校教育課（百合参事） 企画政策課（松尾課長、中村係長、筒井）</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第22回こども教育会議 (発達障がい児支援室の取り組みについて)</p>

## 議事録

<p>内容</p>	<p>1 開会（進行：松尾企画政策課長）</p> <p>2 議事（議事進行：小松市長）</p> <p>(1) 発達障がい児支援室の取り組みについて</p> <p>①話題提供</p> <p>⇒冒頭に、福祉課発達障がい児支援室から、今年度新設した「発達障がい児支援室」の取り組みや成果、課題等について説明し、その後出席者で意見交換を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p>&lt;出席者の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談に来られない保護者や子どもの困り感に不安を感じ、また気づいていない保護者に対し、発達障がい児支援室ではどのようなアプローチをしているか。 ⇒まずは保護者と相談員の信頼関係が大切であるため、子どもの良いところを伝え、保護者の不安な気持ちに寄り添えるよう心掛けている。</li> <li>武雄市の取り組みは、つなぎの対応と伴走型の支援に取り組み素晴らしい。家族、保護者、兄弟の理解が早期発見や支援につながるため大切である。また、早期からの伴走支援を行うことで、困り感を軽減し、進学や就労につながる。</li> <li>就労については、受入れ企業の理解も大切である。</li> <li>環境を整えることで困り感が軽減できる場合もある。現在、子どもの健診時や新入学説明会時にリーフレットやチラシの配布で周知しているが、もっと周囲の気づきや理解を深めるためには工夫した周知が必要である。</li> <li>発達障がい支援室が新設され、相談件数から市民のニーズがこれほどあり、対応できる窓口ができたことは、良いことである。</li> <li>子育て交流サロンの開催について、仕事をしている親が参加しやすい開催時間の工夫が必要である。</li> <li>放課後児童クラブの支援員の研修について、作業療法士による研修を実施。今後も様々なケースに対応できるよう工夫が必要である。</li> <li>「母親、父親、祖父母の理解や気持ちに隔たりがある」という母親の声がある。母親以外の家族の理解や協力を得るための取り組みも大切である。</li> <li>大人が子どもに対して適切な関わり方が分からず困っている場合もある。また、子育て全般でも</li> </ul>
-----------	---

同じだが、子どもとの関わり方が分かっているにもかかわらず心の余裕がなく、対応できない場合もある。支援室の人数を増やす等関わる人のゆとりを持たせる環境づくりも大切である。

- ・ 成人期を迎えるために、幼少期から何に取組めばよいかを考え、幼少期からのデータを活用することが大切である。
- ・ 発達障がい児支援室の取り組みにより、保護者の方から安心感を持ってもらえたと感じる。
- ・ 支援室の対応により学校と保護者間で伝えることが難しかった部分の解消につながり、また支援室と笑顔コーディネーターとの連携もできているため、今後の取り組みも期待している。
- ・ 子育て交流サロンを拡大して取り組んでほしい。
- ・ 全校で取り組む花まる学習は、学校に親も地域の方も関わるため、子どもたちとの関わり方や声の掛け方等において、教育と福祉を連携させることで理解が深まるのではないかと。また、花まる学習を通じた取り組みが子どもたちの環境に新たなアプローチとして良いのではないかと。
- ・ 就労まで支援することが大切であり、事業者に対してもニーズや必要な情報を提供することが必要である。
- ・ スクールカウンセラーと発達障がい児支援室の相談先について、区別があるのか。  
⇒既にスクールカウンセラーで対応ができている場合は、混乱を招かないよう、基本的にはカウンセラーで対応を行い、場合によって発達障がい支援室での対応を望まれた場合は、支援室で対応する。

#### <市長の発言>

- ・ 発達障がい児支援室が今年度4月からスタートして、土台ができた。今後、次のステージに皆さんの意見を反映していきたい。
- ・ 障がい者の支援について、障がい者や支援者の立場で物事を考えてしまいがちである。支援者は良かれと思って支援し、それは素晴らしいことであるが、支援者側の都合であり、その社会に引き寄せてはならない。障がいの有無に関係なく、子どもがやりたいことや自由を尊重する姿勢が大切である。
- ・ 一方で、社会性を身につけることも大切であるが、今ある社会に引き寄せるのではなく、周りが受入れること、社会のみんなの認識が変わることも大事であり、来年度も武雄市として子どもに寄り添いながら、必要な策を考えていきたい。

### 3 閉会（進行：松尾企画政策課長）